

前代未聞!? 作者自身が
図面と作意を間違えていた!!

「恋唄」第26番

若島 正

(池田市)

7月号読者サロンで詰棋野郎氏より『恋唄』第26番について16手目より31玉で変長との指摘を受けましたが、調べてみると31玉に34龍なら33飛合でいっそう厄介なことになり、すっかり困りはててしまいました。15年ほど前の作品ゆえ、当時はいったい何を考えていたのかどうしても思い出せず、悩んでいたのですが……。

ところが、つい最近になってようやく恐ろしい事実が気がつきました。なんと、作者である私自身が図面を間違えていたのです。そしておまけに、誤図から出発したものですから、作意手

順まで間違えてしまったのです! 思いもかけぬ変長が発生したのはそこに原因がありました。

47年11月のバラ誌に発表した正図は次のとおりです。

「恋唄」第26番 正図

持駒 歩歩

『恋唄』では「玉方27と」配置が「16と」になっています。

そして、正手順は次のとおりです。

33歩不成、54角合、同龍、44角合、同龍、24桂合、25金、13玉、31角、22銀合、同角成、同玉、32歩成、同玉、54

角、22玉、21角成、同玉、22歩、31玉、32歩、同玉、33銀、31玉、43桂、41玉、51桂成、同玉、41龍、同玉、42金まで31手詰。

『恋唄』では6手目が「24桂合」ではなく「24香合」になっています。この正図では、24香合なら25金、13玉、31角、22銀合、24金、同歩、15香、14合駒、25桂で早詰となります。さらに問題の16手目22玉のところ31玉なら32歩、22玉、31銀、13玉、24龍、同歩、14歩、23玉、35桂、33玉、43角成でこれも早く詰みます。つまり正図なら完全（でしようね？）だったわけです。

作者が図面と作意手順を忘れるという前代未聞の大失態、『恋唄』をお買いただいだいた方々に深くお詫びいたします。図面と作意を右のように御訂正下さい。そして、このとんでもないミスに気づかせて下さった詰棋野郎氏に感謝します。どうもありがとうございました。